

「片言の多言語でも口にしていこう—そこには大きな意味があった!」

—世界に通じる力を育てる—NPO 法人「多言語広場 CELULAS のメルマガ」—第 58 号—

10月7日～9日の2泊3日、セルラス多言語活動フォーラムが愛知県犬山市で開催されました。

今回の多言語活動フォーラムでは、アメリカに高校留学やホームステイした青少年の、人と向き合い違いを乗り越えるたくましさを感じる体験談や、留学生によるメッセージ性の強いスピーチ、ディスカッション、国宝犬山城に出かけて、多言語を使いながらのアクティビティなど盛りだくさんの内容でした。関東・関西、様々な世代のメンバーが参加し、人と作り上げ成長していこうとする、セルラスならではのフォーラムとなりました。

このフォーラムでは、「多言語で話そう!」を実践し、多言語を話す環境(ピアザ)のあり方、そして、多言語に取り組む意味を考えていく場にするという目的が掲げられていました。

参加者一人ひとりにフォーラムを通して、様々な気づきがありました。

今回は参加者お二人の発見をご紹介します。

【目次】

《1》

◆「多言語を口に出すことで開かれる 多様性の扉」

岡本さん

◆「日本人同士でも 多言語を話す環境は作れる!」

中西さん(高1)

《2》 セルラス インフォメーション

《1》

◆「多言語を口に出すことで開かれる 多様性の扉」

東京都世田谷区在住 岡本さん(家族構成: 夫、小2長女)

日本語で話したほうが伝わるのに、わざわざ中途半端な多言語を使う必要があるのか、たった一言、二言しかできない多言語を使うことに意味があるのか、実は疑問に思っていました。

しかし、初日の理事長のお話を聞き、多言語を口に出すということは、自分を違う環境に置くことにつながり、そこから多様性への扉が開くのだと気づきました。

中途半端な多言語を口に出すことに対する抵抗感は、多様性に対して心を開くことへの抵抗が混じっているのだなと思いました。セルラスの多言語活動が、多様性を受け入れる器を育むことにつながる…ということがやっと腑に落ちました。

その日の夕食時、隣になった留学生のディーちゃんにリトアニア語で「アチュー(ありがとう)」と尝试してみました。

ディーちゃんの表情がぱっと変わり「どうして知っていますか?」と笑顔で話してくれました。

通じた嬉しさを感じると同時に、一言二言だったとしても、口に出すことに意味があるんだということを実感しました。

◆「日本人同士でも 多言語を話す環境は作れる!」

東京都杉並区在住 中西さん(高1)

今年のセルラスは、多言語で話そうというのが大きなテーマになっていますが、リーダーズトレーニングキャンプ、サマーキャンプよりも今回のフォーラムが、一番多言語を近くに感じました。

理由は多くあると思いますが、やはり参加してる人の意識が高かった事が大きいと思います。

特にコーディネーターの皆さんは誰よりもたくさん日常的に多言語を使っていて、それが周りの雰囲気、多言語で話すものへと変えて行ったんだと思います。

私も普段のピアザから積極的に多言語を話していきたいと思います。

また、2日目の犬山城で行った多言語アクティビティで、多言語を使うミッションがあったことも大きいと思いました。

私が一番いいなと思ったのは、アクティビティの中で、留学生役になるというミッションです。

2人組になって、自分は多言語だけを話すというものだったのですが、

この夏にメキシコ人のサラが家に来てくれた時のことを思い出しました。

サラとは、英語とほんのちよっとのスペイン語でのコミュニケーションだったのですが、

シチュエーションがその時ととても良く似ていて驚きました。

今までは、日本人同士じゃ多言語を必然的に話す場を作るのは難しいと思っていました。

でも今回のことを通じてどんな時でもどんな人とも必然の場は作り出せるということに気がつきました。

日本人同士だから日本語の方が伝わりやすいのは当然です。

でも、自分が外国人になりきって、相手も外国人なのだと思込むことで、限りなく実際の日本語が通じない場に近しい環境は作れます。

家でも家族で「今から日本語をしゃべっちゃダメな時間ね♪」とか言って、多言語だけを話す時間を作るのも面白いかなと思いました。

そうやって、日々少しずつ多言語を自分の身の周りに置いておくことが習得の近道になるのかなと思い、なんだか先が見えた気がします。

いかがでしたでしょうか。

「たった一言、二言でも多言語を使うことに意味があるの?」「日本人同士で多言語を話せる場は作れるの?」

ご紹介したお二人のこんな疑問に、共感された方もいるのではないのでしょうか?

でも、岡本さんのように、少しの多言語で話してみることからでも、多言語に取り組むことで育つ

大切なものの存在に気づいていくことができれば、セルラスの目指す人材育成の環境にとって多言語活動がなくてはならないものであるということが見えてくるでしょう。

そして、中西さんのように多言語を口にする楽しさをみんなで工夫し体験できれば、日本人同士であってもより多言語が豊かになる環境を作っていけるのではないのでしょうか。

12月にはセルラスの今年最後のビッグイベント『多言語広場フェスティバル』があります。

このフェスティバルには任意ですが、それぞれが、多言語プレゼンテーション、多言語自己紹介、

ワンマンロールプレイのいずれかをエントリーして発表する場もあります。

家族やピアザで楽しみながら準備していく絶好のチャンスです。また新たに多言語で育つ力を実感してみてください。

《2》 セルラス インフォメーション

◆ 秋の講演会のお知らせ

いよいよ、秋の講演会が始まります。セルラスのこと、多言語習得活動のこと、詳しく知りたい方は、ぜひ足をお運びください。また、お友達、お知り合いにぜひお知らせください。お申し込みお待ちしております。

◎関東

▼東京

【飯田橋】

10/26(木)19:00～21:00

10/31(火)10:00～12:00

▼神奈川/川崎市

【溝の口】

11/6(月)9:45～11:45

11/9(木)9:45～11:45

◎関西

▼兵庫県

【東灘】

11/7(火)10:00～12:00

【三宮】

11/8(水)10:00～12:00

【六甲】

11/13(月)10:00～12:00

【神戸】

11/14(火)10:00～12:00

開催場所、時間などの詳細は HP をご覧ください。

⇒<http://www.celulas.or.jp/skejur3.html>

◆セルラスでは機関誌『CELULAS(セルラス)』を発行しています。

このメールマガジンと併せてセルラスの活動内容を楽しく紹介しています。

10月初旬に、第8号が発行されました。この夏、アメリカや韓国にホームステイした子どもたちの体験や青少年サマーキャンプ、そして、10カ月の留学を終えて帰国した二人の高校生の手記も掲載された特大号です。ホームページでもご覧になれますので、ぜひご一読ください。

⇒ <http://www.celulas.or.jp/kikannshi.html>

このメールマガジンは、セルラスの会員をはじめ、これまでセルラスが開催した『多言語教育講演会・セミナー』に参加されるなど、私たちの活動にご興味を寄せいただいた皆さんにお送りしています。

セルラスの多言語活動や異文化体験、楽しい交流の様子などを、より多くの皆さんに知っていただくために発行しています。日頃の私たちの活動やご家族で参加いただけるイベントや講演会などのお知らせを、月2回の予定でお届けします。